

アユの資源状況と増殖対策等について

1. 人工河川の放流状況

(1) 安曇川人工河川(目標放流量18トン)

- ・県内養殖業者が育てた養成親魚を放流。
- ・資源状況を考慮し、通常8トンに10トン追加(当初7トン+7月補正3トン)
- ・18トンの親アユのうち、概ね8トン分を9月に、10トン分を10月にふ化させる計画。
- ・8月27日(月)から放流を開始し、8月30日(木)までの4日間で8.4トンを放流。
- ・残り9.6トンは10月にふ化させる親アユとして、9月中旬から9月下旬にかけて放流予定。
- ・平均体重30g(体長12cm)、60万尾。
- ・産卵は9月2日から確認。
- ・ふ化仔魚の流下は9月8日から確認。



写真 安曇川人工河川での親魚放流

(2) 姉川人工河川(目標放流量4トン)

- ・姉川に遡上する天然親魚を採捕し、放流。
- ・親魚は、9月中旬に採捕され次第、4トンを放流予定。

2. 天然河川の産卵状況(主要11河川)

- ・8月下旬の第1次調査の結果、主要11河川のうち8河川で合計960万粒の産卵を確認。(同時期の平年値は1,200万粒、去年は103万粒)

単位:億粒

	8月下	9月中	9月下	10月中	10月下	11月上
調査次	1次	2次	3次	4次	5次	6次
平年値	0.120	27.0	35.4	19.3	0.4	0.0
H30	0.096					

3. 魚群調査

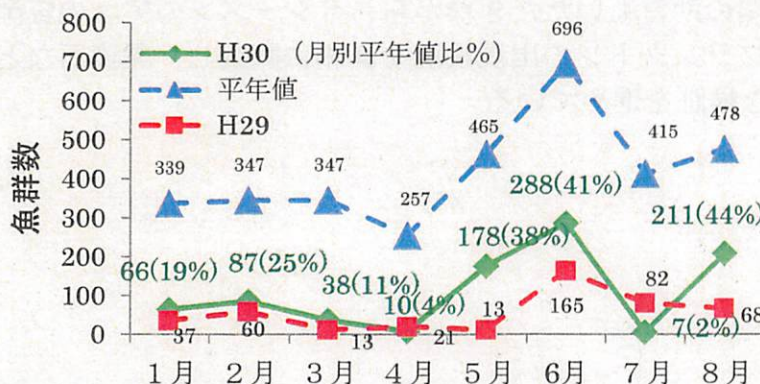


図1 平成30年周回コース魚群数の推移

平年値:過去10年間のうち最大・最小を除く平均値



図2 8月周回コース魚群調査

- ・ 7月の魚群数は7群（平年比2％）で、6月の288群（平年比41％）から大きく減少したが、8月には211群（平年比44％）と回復した。
- ・ 7月の魚群数の減少は、7月5日の豪雨後の増水で、魚群が分散したことや、河川の出水に誘引され、接岸したり河川に遡上したことが原因と考えられる。
- ・ 8月の魚群数の増加は、接岸した魚群が沖合へ移動したり、分散したアユが魚群としてまとまったためと考えられる。
- ・ 記録的な不漁となった昨年と比較すると、本年の魚群数は4月と7月を除き昨年の魚群数を上回って推移した。

4. 今後の調査等

(1) 天然河川の産卵調査

- ・ 9月中旬に第2次調査を行い、その後2週間おきに11月上旬の第6次調査まで実施し、天然河川での産卵数を把握

(2) 人工河川の仔アユ流下量調査

- ・ 10月下旬までに日ごとの流下数と期間全体の総流下数を把握

(3) 湖中仔稚アユ分布調査

- ・ 10月から12月にかけて曳き網による調査を実施し、仔稚アユの分布、成長等を把握

(4) 次期アユ漁

- ・ 12月1日からエリでのヒウオ漁が開始される予定
(開始日は県漁連で11月頃に最終決定)

(5) 不漁原因の解明

- ・ 昨シーズンの不漁原因については、過去10年間でアユの体型が小さくなる傾向があることや、平成28年秋のアユのふ化が10月以降に遅れるとともに、一時期に集中したことによる密度効果等により、著しく成長が遅れたためであると一定の絞り込みを行った。
- ・ 水産試験場と琵琶湖環境科学研究センターが連携し、国立環境研究所琵琶湖分室、国の水産研究機関の助言もいただきながら、今シーズンのアユの資源や成長の他、植物・動物プランクトンの出現状況を詳細に調査し、環境面など広い視点を含め、引き続き検証を進めている。